

# アイヌ語の秘密

エカシ ekasi おじいさんは	ポロ poro 大きな 修飾語	ユク yuk 鹿を 被修飾語	フチ huci おばあさん	トゥラ tura といっしょに	オノン onon どこから	ルラ? rura? 運んだの?
主語	目的語	述語				

図1 ↑ アイヌ語の文法。日本語に似ている。

ぼくは、アイヌ語について調べてみた。まず、アイヌ語の文法について調べてみた。左にある図1を見てみると、日本語の語順にとっても似ていることが分かる。多少の例外があるそうだが、基本的にはこのような語順を使うようだ。文法が日本語と非常に似ていることについて

発行元  
鬼鹿小学校  
発行  
発行日  
令和5年度2月  
発行者押印

て、ぼくは意外におもった。何故なら、英語は、日本語の語順とは異なり、「I speak Japanese」という文では、「主語」「動詞」「目的語」の順番で来ている。この場合、「私は喋れます。日本語を」のように日本語が変に感じてしまう。でも、アイヌ語は日本語の語順と瓜二つのため、そのまま単語ずつ読んでも違和感がない。

また、語順が日本語に似ていることにより、英語とは違って覚えやすいというメリットもある。英語は、基本的には言葉を覚えながら文法や単語の順番を勉強しなければならない。しかし、アイヌ語であれば、言葉を覚えるだけで基本的な会話を行うことができるため、日本人でも覚えやすい言語のひとつといえるだろう。このような語順の言語は、アイヌ語以外にもたくさん存在しているが、アイヌ語は私たちが住む北海道の先住民族が使っている言葉であるからこそ、アイヌ語という一つの文化を忘れずに大切にしていく必要があるのではないのだろうか。アイヌ語の文法で日本語に似ている箇所を一つ挙げたが、逆に日本語と異なる部分はあるのだろうか。右下の図2を見てほしい。これは、日本語で「歩く」を意味する「アプカシ」を使った例文だ。見てみると、どの文にも「私」や「君」などの「誰が」がついていることが分かる。これがアイヌ語の文法で日本語と異なる部分の一つ、人称の区別が必ず表示されている所だ。人称の区別とは、ある動作が話し手や聞き手などのうち、誰によって行われるのかを定義したものだ。これは英語でも必ず表示されており、日本語と大きく異なる部分のひとつである。また、アイヌ語は「〜で」「〜に」などの意味をあらわすものが名詞の後ろではなく、前に来ることもあ

るようだ。例えば、先ほどのアプカシ「歩く」の前に、「コ」に「〜に」を添えて例文を作ると、「おじいさんの所へ私が歩いていく」を「エカシクコアプカシ」(おじいさんが・〜のところへ歩いていく)のように表すこともできるようだ。

最後に、アイヌ語での禁止・拒否を表す言葉について調べてみた。どうやら、禁止や拒否を表す

図2 ↓ 「アプカシ」に「ク」などが付いている。

クアプカシ	ku = apkas	: 「私が歩く」
アプカシアシ	apkas = as	: 「私たちが歩く」
エアプカシ	e = apkas	: 「君が歩く」
エチアプカシ	eci = apkas	: 「君たちが歩く」

ひとつである。また、アイヌ語の「〜で」「〜に」などの意味をあらわすものが名詞の後ろではなく、前に来ることもあ

アイヌ語について調べてみて、日本語に似た部分、そうではない部分についてよくわかりました。日常で使ってみたいけれど、まだ難しいと思います。



調べてみた感想

言葉(「〜しない」や「〜するな」など)は、日本語とは違い動詞の前に置かれるようだ。例文としては、「ソモクアプカシ」(「〜しない 私が行く」)で「私は歩かない」という文ができる。

また、「イテツケアプカシ」(「〜するな 歩く」)で「歩くな」などの文も作ることができる。他にもアイヌ語の特徴は沢山あるが、まだ分かっていないこともある。アイヌ語の解明には、時間が必要だ。

## 参考文献

・アイヌ語の文法1 | ほっかいどうアイヌ語アーカイブ | 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター